

被災地の早期復興をお願いします																			
松山市立番町小学校5年																			
平成24年4月、父が東日本大震災の復興事																			
業のため、宮城県仙台市に、4か月間出張す																			
ることになりました。父がいない4か月間は																			
また地震が起こるのではないかと心配でした。																			
そして、その年の夏、母と兄弟、私の4人で																			
父が仕事をしている仙台市に行きました。行																			
く前は、旅行に行くのが楽しみで、わくわく																			
していました。																			
宮城県では、父に案内してもらい、いろい																			
ろな被災地をまわりました。被災地には、ま																			
どガラスがなくガラスとした学校、屋根がく																			
ずれているガソリンスタンド、津波で流され																			
た橋、基礎だけの家のあと、横にたおれた建																			
物などがありました。私は、その光景を見て、																			
ショックを受け、あ然としてしまいました。																			
被災地はどこもこうなってしまったのだと改																			
めて知りました。そして、ここでは、私と同																			
じくらいの年令の子ども達がたくさん土くな																			

ってしまったという話を父が教えてくれました
た。赤ちゃんからお年よりまで、たくさんの
人が亡くなったことは、とても身近なことの
ように感じました。

あれから5年、がれきをたくさんのせて走
っていたトラック達は、復興するための資材
を積んでいるのだろうか。渡れなからた橋や
家の基礎のコンクリートだけ残っていた地区
は、どうなっているのだろうか。

現在は、津波で流された橋や段差の大きか
った道路もきれいになったと聞きました。ま
た、海岸線には、津波を防ぐための高い堤防
ができた。流されていた電車や線路も使え
るようになった。今では、電車も走っている
と聞きました。もし、宮城県に行く機会があ
ったら、きれいになった橋や高い堤防、町並
を自分の目で確かめてみたいです。

私の学校では、毎月11日を命の日として、
命について考えています。命を守る、生活を
守る建築物・建設物についても考えてみたい

です。



わたれない橋
橋がずれてしまい、渡れ
ない状態



被災地の様子

基礎のコンクリートだけ残った
住たく地